

東館南集会所

〒329-0611

上三川町大字上三川1223-1

8月の集会所開故事業「紙粘土細工」参加者募集

紙粘土で、おしゃれな飾り細工の「森の妖精」を作ります。お気軽にご参加ください。

- ▶期日＝8月23日（日） 午前10時～正午
- ▶講師＝小川 礼子さん おがわ れいこ ▶材料費＝300円
- ▶定員＝5人（先着順） ▶持ち物＝エプロン、マスク、タオル
- ▶申込み期間＝8月17日（月）まで
- ▶申込み先＝下記の「問い合わせ先」にお電話ください。



6月23日（火） 第2回共同学習会を開催しました

「マイクロアグレッションって何？～日常の中に潜む差別の芽に気づくためには～」

講師 河内教育事務所ふれあい学習課 もり みゆき 森 美佑紀さん

誰しも無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）をもっています。それが無自覚な言動として相手に不快感を与えるマイクロ（ささいな）アグレッション（攻撃）となることがあります。その具体的な場面をもとに、グループで意見を交換しました。なぜそのような言動が起こりやすいのか、それを防ぐためには、加害者・受け手・第三者それぞれの立場で考えてみるのが重要であると教えていただきました。



〈具体例〉

- ・海外にルーツをもつ人に「日本語がお上手ですね」（外見的特徴を特別なものとして差異化している）
- ・「男らしくて頼りがいがあるね」（男、女はこうあるべきとの固定観念がある）
- ・背の高い人に「何かスポーツをしていましたか？」（背が高い＝運動が得意との身体的特徴を無自覚に価値づける）

自分で考える「ふつう」「当たり前」に疑問をもち、ときには見方を変えていくことが、温かな人間関係を育むことにもなることを学びました。

【参加者の感想】

- 自分自身を見つめる機会になりました。相手の立場を考えた言動を心掛けたいと思います。
- 多様な価値観にふれることが、自分の言動をブラッシュアップすることになると感じました。



～「第三者返答」をしていませんか？～ マイクロアグレッションの1つとして

このような場面を見たことはありませんか？

- 日本語ができる外国人と友人の日本人が飲食店に入り、外国人が注文しても、日本人だけに確認する。
- 車椅子の人や視覚障害者の方が質問をしているのに、介助者に向けて話をする。
- 妻の用事で夫婦で役所に行ったのに、夫に向けて職員が説明をする。

当事者からすると、コミュニケーションをとりたいのは自分なのに、第三者に確認や説明をされることで、自分が無視されたような感じになります。

意思疎通に問題がないにも関わらず、その人を無視して一緒にいる人に返答する。この「第三者返答」は、無意識の偏見からくるマイクロアグレッションです。障害者差別解消法（2016年施行）について内閣府のリーフレットには、不当な差別的取り扱いの例として「本人を無視して介助者や支援者、付き添いの人だけに話しかける」を挙げています。相手に意思確認をすることが大切です。

▶問い合わせ先＝生涯学習課 生涯学習係 ☎0285（56）9159